

# 介護福祉学 シラバス (2022年度)

## 1. 科目名 介護福祉学

## 2. 「介護福祉学」の学びへのご招待

2019(平成31)年に発表された「介護福祉士養成課程カリキュラム改正に対応した教授方法」に基づいて

## 3. 科目担当者

担当講師：亀山幸吉（淑徳大学短期大学部名誉教授）

## 4. 授業時間

2022年7月30日(土)：介護福祉学①② 9:20～16:40、

8月21日(土)：介護福祉学③④ 9:20～16:40、9月4日(日)：介護福祉学⑤⑥ 9:20～16:40

10月1日(土)：介護福祉学⑦⑧ 9:20～16:40、10月2日(日)：介護福祉学⑨⑩ 9:20～16:40

## 5. 授業実施方法

Zoomでの開講。詳細は、10. 本講におけるオンライン学習での学び方を参照してください。

## 6. 皆さんと私のコミュニケーション

ご質問・その他の連絡などは次のアドレスに連絡をください。

○件名は「お名前」と「敬介教2022」としてください。授業中の質問はいつでも結構です。



○課題の提出は必ず、事務局：介護教員講習会サポートデスク（[supportkaikyojin@keishin-group.jp](mailto:supportkaikyojin@keishin-group.jp)）に送ってくださいようお願いいたします。

また、ファイル名の保存方法は事務局から配布された<<受講の手引き>>に記載された方法名で宿題のファイル名の保存をお願いします。皆さんの課題は事務局が一括して私に送信してくれます。

## 7. 目標

現代の介護問題と介護福祉士の存在意義を確認し、その社会的背景も視野に入れながら、求められる介護福祉士像と介護福祉士教育の歴史を踏まえ、今日の介護福祉士教育の目指すべき内容や課題を理解し、「介護福祉学」構築に向けての礎を目標にします。

## 8. 講義内容と留意点

1) 現代の介護問題と介護福祉士の存在意義～「留意点」として〈調査委員会作業部会報告書〉は「産業構造の変化による家族や地域の変化や高齢社会の進展による老々介護に介護の社会的な手として生まれた介護福祉士の存在意義が提起されています」

→その点を改めて検証しつつ〈現代の介護問題〉と〈介護福祉士の存在意義〉を追究しつつ介護福祉教育の展開について共に考えたいと思います。

2) 現代が求める介護福祉士像と介護福祉士養成教育の変遷

(1) 社会福祉分野からの問題提起→「日本介護福祉学会の出発点の1987(昭和62)年」を社会福祉分野からケアワーカーの専門性と資格制度のスタートと〈留意点〉ではしています。私(亀山)は発会に向

けた講演会(一番ヶ瀬康子学会長)で樋口恵子氏らとシンポジストとして出席しました。改めて「留意点」に基づき、〈社会福祉との接点〉について明らかにしたいと思います。

(2) 社会福祉士及び介護福祉士法成立と介護福祉士養成教育→1988(昭和63)年に社会福祉士及び介護福祉士法成立の下で養成教育の目的と特徴について明らかにしたいと思います。

(3) 介護保険と介護福祉士養成教育→介護保険導入の背景とその理念を押さえつつ、介護保険導入時に改訂された介護福祉士養成教育の変更点について考えましょう。

(4) 「2015年の高齢者介護」の下での介護福祉士のあり方と養成プロセスの見直し→初めての介護保険見直しで纏められた「2015年の高齢者介護」での問題提起と、これを根拠に再検討された介護福祉士像と養成プロセスの見直しの内容を深めたいと思います。

(5) 2025年に向けた介護人材の確保と介護福祉士養成教育→2015(平成27)年「2025年に向けた介護人材の確保～量と質の好循環の確立に向けて」から2016(平成28)年に「ニッポン一億総活躍プラン」第3の矢「介護離職ゼロの実現」、その具体的な施策「地域共生社会」の第3テーマ「専門人材養成の見直し」に向けての動きと2017(平成29)年の新たな介護福祉士像と介護福祉士養成改正カリキュラムの特徴について理解を深めつつ課題について探究し教育の展開について考えたいと思います。

3) 介護福祉士の生活支援を支える人権・福祉理念→介護福祉学の第一人者の一番ヶ瀬康子先生は常々、〈人権保障〉を福祉理念の第一義に捉えていました。「現代の介護問題」としても重視されるところの虐待問題は残念ながら止まりません。「人間の尊厳と自立」も課目にもなりましたが生活支援についても重要なテーマとして追究し教育実践として展開しましょう。

4) ヒューマンサービスとしての介護福祉士の専門性と倫理性→ヒューマンサービスの特徴とそれ故に求められる介護の専門性と倫理性を考え、「介護の倫理」「職業倫理」「生命倫理」との相関性について実践的に理解を深めたいと思います。

5) 介護実践を支えるチームマネジメントと多職種連携・協働→介護福祉実践はチームマネジメントが必須です。ケアを展開するチームマネジメント、人材育成・自己研鑽の為のチームマネジメント、組織の目標達成の為のチームマネジメントがあり、それらの相関性の理解を深め、教育実践にいかしたいと思います。

6) 地域を意識した生活支援の展開と地域包括ケア→厚労省や内閣府の審議会や委員会で同席させて頂いた田中滋先生(慶応大学名誉教授)は「地域包括ケアシステム」の提唱者ですが、その内容を検証し「2040年に向けた挑戦」を踏まえ、今後の介護福祉士の立ち位置や果たすべき役割を考えましょう。

## **9. テキスト・参考文献・教材**

テキスト・参考資料・教材など特にありません。必要な教材は当日あるいは前もって届けます。

## **10. 本講におけるオンライン学習での学び方**

### **1. メールによる情報交換・・・**

此の授業では、受講生 — 講師間での、授業用資料の送付やレポート類の提出を、メールに添付文書して送る

方法で行います。

## 2. Zoomでの参加について

①この講座は、Zoomで参加いただいておりますが、ウェビナー方式ではなく、ミーティング方式での参加になっています。これは、「インタラクション(意見交換など)のない授業は、「授業」ではない。」という、最近のアクティブラーニングの考え方を反映しているためです。(この詳しい内容は、授業中に触れます。) というわけですので、この授業は単に聞くだけではなく「参加」が前提です。又、受講生同志での意見交換の機会を多く設けますので、ぜひ、ともに学ぶ仲間を増やしてください。

②従って、授業中は基本的に、映像をオンにしてご参加ください。(映像が出ない場合は休憩中??)

③音声は騒音が入ってしまうと困るので、原則ミュートにしておいていただきたいのですが、状況に応じてすぐにミュート解除できる様にしておいて下さい。

④講義中に質問や意見等がある場合は、チャット機能を使って質問(意見)を送るか、発言したいという意思表示を行ってください。(ご発言いただける様、こちらから指名します。) 手を挙げて連絡して下さるのも可ですが、こちらでは一人一人の画像が小さいので、見落とす場合があります。

⑤授業中に資料の共有として資料(原則として事前配布)を示す場面が、多々あります。出来るだけ、おおきな画像が見られるか、事前のプリントなどしてしまうかして、使えるようにしてご参加ください。

⑥授業を進めながら、この授業でのZoomへの参加の仕方や、守るべき内容等について、皆さんと共に、一定のルールを創っていきたいと思いますので、どんどんご提案下さい。

⑦この授業のZoom URL、IDとパスワードなどは以下の通りです。(全回、同じ)

Zoom URL : <https://zoom.us/j/>

ミーティングID :

パスワード :

以 上